

# 青森県 十和田市 アート・トワダまちづくり地区

- 観光・交流
- コンパクトシティ
- 交通利便性向上
- 経済活性化
- 健康・医療
- 子育て支援
- 防災・減災
- その他

## ■ 基本情報

計画期間：平成 21 年度～平成 25 年度

面積：151.0ha

交付対象事業費：2,270 百万円

市町村人口（地区人口）：63,581（2,461）

## ■ 地区概要

十和田市の中心市街地活性化計画区域を内包し、都市機能と商業の拠点となる地区であるが、空洞化が進み機能と活力が衰退しつつあり、賑わいのあるまちに再生することが強く求められている。アートが融合する街並みを創出するとともに、地区内の道路を整備し利便性を高め、住民や来街者など人々が集い、活動し、賑わいと魅力あふれるまちづくりを推進する。

## ■ 目標

アートの感動を共有する賑わいの街とわだ

～人々が集い、暮らし、活動する中心市街地を目指す～

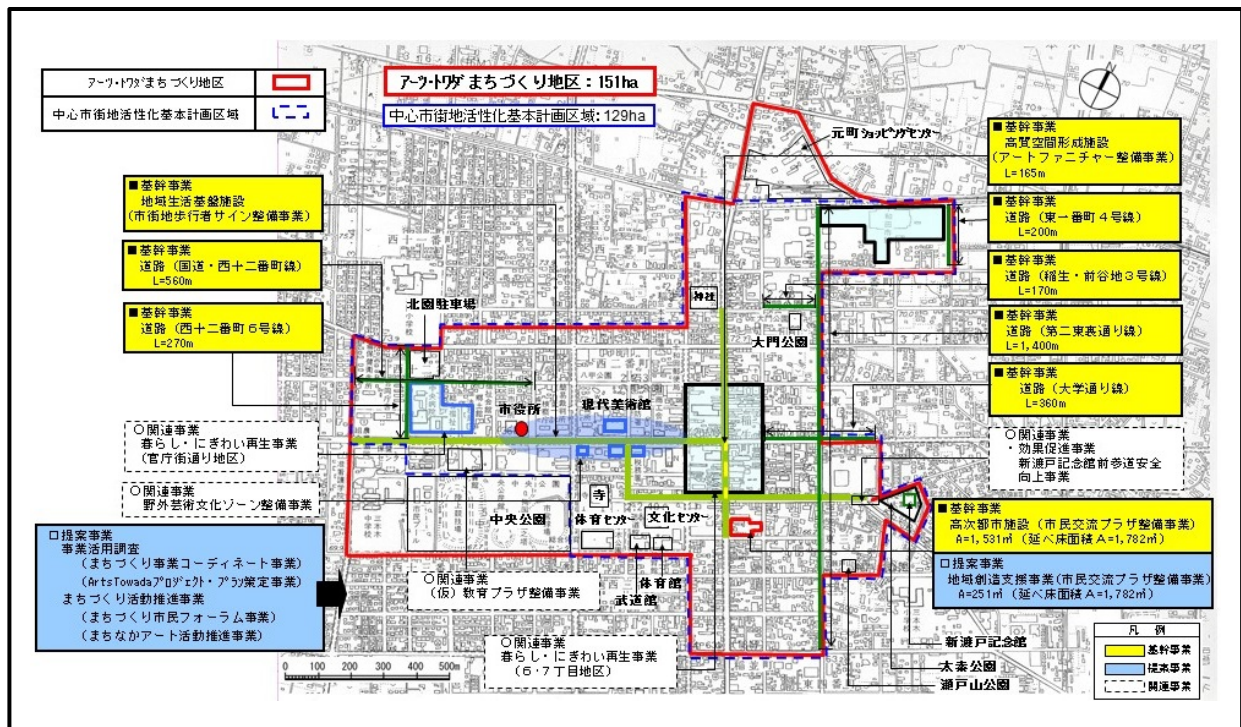
- ・ 芸術・歴史・文化を活かした魅力的な市街地の形成を図る。
- ・ 多様で元気なお店や快適な空間・機能の集積を図る。
- ・ 公共公益機能の充実や安心安全な生活環境の整備を図る。

## ■ 主な事業

基幹事業：【高次都市施設】市民交流プラザ（1,358 百万円）

【道路】市道 第二東裏通り線 等（577 百万円）

提案事業：【まちづくり活動推進事業】まちなかアート・まちづくりフォーラム（57 百万円）

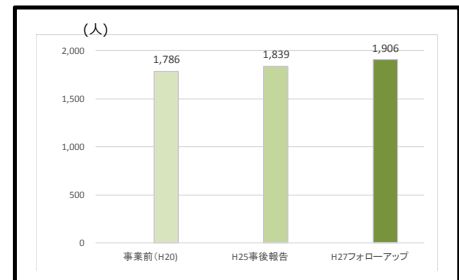


## ■まちづくりの実施効果

### 定量的な効果

#### ●歩行者・自転車通行量

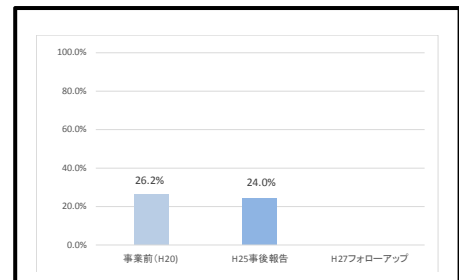
安全で快適に通行できる歩行空間を確保するための道路整備と野外芸術文化ゾーンのコネクトを中心市街地に広げ、来街者の回遊を促すために設置した『アートファニチャー』や『市街地歩行者サイン』により、通行量が増加傾向に転じた。



#### ●空き店舗率

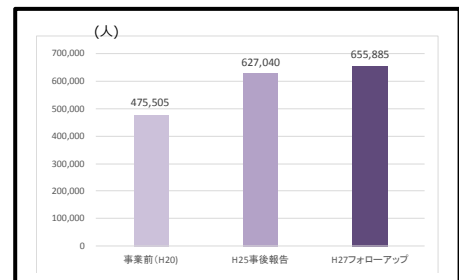
野外芸術文化ゾーンと隣接する商店街等を会場とするアートイベント『まちなかアート活動推進事業』の実施や来街者の回遊誘導施設の設置などにより、まちなかにぎわいが創出できたため、空き店舗率が減少したと考える。

※事後評価後、調査していないためフォローアップはしていない。



#### ●公共施設利用者数

回遊誘導施設による観光拠点から観光物産交流施設などへの回遊、公共施設への接続及び周辺の道路整備による交通利便性の向上などにより、公共施設利用者が増加したと考える。



### 定性的な効果

- 公共施設の整備による回遊性の向上やまち全体でのアートイベント等により、にぎわいの創出やアートに関する魅力の向上に寄与するなど、一定の効果は得られた。  
(キャベツの形のアート作品に集まる見物客)



## ■効果を継続させるための今後の取組み等

- 魅力ある市民交流プラザ、現代美術館などの拠点施設を目的に来街した方が、街を楽しく回遊できるような情報発信ツールや定期的なアートイベント等を地域住民や商店街と協働で実施していきたい。

## ■地区 PR 欄

当市は青森県南部の内陸部に位置し、十和田湖や奥入瀬溪流、秀峰八甲田などの豊かな自然を有するとともに、県内トップクラスといわれる安全安心でおいしい農畜産物の生産地帯や、新渡戸三代の開拓による「近代都市計画のルーツ」といわれる整然と区画された市街地で形成されている人口6万3千人（H27年3月末現在）の都市である。

しかしながら、近年衰退していく商店街、市中心部を中心市街地活性化基本計画の認定を受けたことにより、都市再生整備計画事業とともに、さまざまな事業を活用しながら中心市街地の活性化を図りたいと考えました。

市民や商店街関係者の方々とのワークショップを重ねた結果、活性化のツールの一つとして、市中心部にオープンした野外芸術文化ゾーンの「現代アート」の魅力を十分に活用しようという結論に達しました。

急速に変化する社会経済情勢の中、地方を取り巻く状況も厳しさを増しておりますが、市民や関係者の皆様と手を携え、現代アートの魅力を活かしながら、中心市街地全体が感動や楽しさ、美しさを共感できる「まちづくり」を進めています。

### SUMO AURA展 (相撲オーラ展)

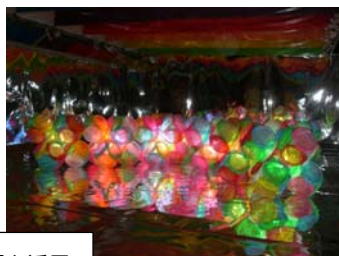


フラワーホース  
にマワシを着用



店舗 2Fの空き部屋を活用

### 街なかアートイベント



商店 2Fの空き部屋を活用



商店



空き店舗活用



店舗